

平成 24 年 7 月 19 日

農林中央金庫

森林組合トップセミナーおよび

森林再生基金（FRONT80）助成先第 6 回事業発表会の開催について

1 概 要

- (1) 農林中央金庫は、森林組合トップセミナーおよび森林再生基金の助成事業発表会を開催いたします。

森林組合トップセミナーは、全国森林組合連合会との共催で、今回で 5 回目の開催となります。森林組合系統の一層盤石な経営体制の構築に向け、森林組合および都道府県森林組合連合会等の経営層が参集いたします。「森林・林業再生プラン」（林野庁）がスタートしている中で、森林・林業再生プラン実行管理委員会の座長を努められている岡田 秀二氏（岩手大学農学部教授）をお招きし、ご講演いただく予定です。

- (2) 「公益信託 農林中金 80 周年森林再生基金」（通称 FRONT80）は、当金庫の創立 80 周年を契機として、平成 17 年に組成した公益信託（信託財産は 10 億円）で、国内の荒廃した民有林の再生に資する非営利団体の事業・活動に対する支援を通じ、社会貢献に取り組んでおります。毎年、応募いただいた中から助成（1 年あたり合計 1 億円程度を目処）していますが、今回は、平成 22 年度（第 6 回）の助成事業（6 事業）について、各事業主体より事業成果等を発表いただきます。

- (3) 森林組合トップセミナーおよび森林再生基金事業発表会の模様は、報道関係の皆様にご公開いたしますので、以下のとおりご案内いたします。

2 日時・場所等

- (1) 日 時 : 平成 24 年 8 月 2 日（木）13:30 ～ 翌 3 日（金）12:00
(2) 場 所 : ホテル日航東京（東京都港区台場 1 丁目 9 番 1 号） 「ペガサス」
(3) 出席者 : 全国の森林組合・都道府県森林組合連合会の経営層、森林再生基金助成事業関係者、および森林専門家等

3 主なプログラム

(1) 基調講演

講 師 : 岡田 秀二氏 (岩手大学農学部教授・
森林・林業再生プラン実行管理委員会 座長)

テーマ : 『森林・林業再生プラン』を読み解く～森林組合のこれから」

日 時 : 2日(木) 14時～

(2) 森林再生基金事業発表会 (平成 22 年度・第 6 回助成事業)

日 時 : 2日(木) 15時 30 分～

助 成 対 象 先	事 業 の 概 要 と 評 価 の ポ イ ン ト
きたしんしゅう 北信州森林組合 (長野県)	事業名 : デジタル森林管理 ～森林経営の再生を目指して～ 当地域は、リゾート開発・構想があったものの、その後の撤退により、整備が放棄された荒廃森林が多く存在し、また、境界不明の集落林も多く、交通の便の良さもあり、ごみの不法投棄等の新たな問題も発生している。 当事業では、放棄された森林を、もう一度、地域の管理下に取り戻すため、境界明確化、資源量調査を実施し、そこで得られたデータを GIS でデジタル管理し、森林整備(ハード)事業に結びつけることで、地域森林の持続的利用モデルの構築を目指すという取組みが評価された。
そまのもりがくしゃ NPO 法人 杜の学舎 (岐阜県)	事業名 : 美濃市ふくべの森入会林野再生モデル事業 当地域は、美濃市片知地区の水源の源流部に位置し、官行造林地として管理されてきた森林である。分収契約期限の到来を機に、皆伐を回避するため地域住民が立木を買い取ったものの、地元には森林管理の知識と技術を持った人材が減り、共有林管理の再構築が課題となっている。 当事業では、既に切捨て間伐等を行い、地域住民から信頼を得ている NPO 法人が指導的役割を務め、地域住民とともに森林整備のモデル林を設置し、地域住民による共有林管理体制の再構築を目指すという取組みが評価された。
ちゅうせい 中勢森林組合 (三重県)	事業名 : 森林ゾーニングによる多様で健全な森林づくり事業 当地域の森林は、全国的にも珍しい谷から尾根にかけた狭い帯状の所有界、かつ植栽も同時期で、境界明確化に多大の費用と労力を要することから、森林整備がされずに放置され、多面的機能が失われつつある。 当事業では、対象地をオオサンショウウオ等の貴重動植物の保全にも配慮したゾーニングを行い、境界調査、林況調査結果に基づき、人工林については路網整備、高性能林業機械の活用による低コスト化に努め、C材搬出を含めた各段階のコスト検証を行うという取組みが評価された。
よしの 吉野林業協同組合 (奈良県)	事業名 : 川上村下多古峰の平 作業道作成工事及び周辺間伐事業 当地域は、古くからの林業地で、優良材を生産し、高い材価により高コストのヘリ集材費用を賄うことができたことから、急峻な地形ということも相まって、他地域に比べ路網整備への関心が低く、その整備が著しく遅れている。 当事業では、これまで一部組合員が実践していた「壊れない作業道づくり」の技術を吉野地域の林業家で共有することで、現場までの通勤時間を含めた労働強度の軽減、利用間伐等の低コスト化を図り、長伐期施業を旨とした適正な森林整備を行い、地域経済の発展、若き林業労働者の確保を目指すという取組みが評価された。

くもとけん 熊本県森林組合連合会 (熊本県)	事業名： 熊本市西部域民有林の森林境界明確化と荒廃森林の保全対策 当地域は、熊本市の民有林が集中しているが、森林組合が解散し、民有林に対する森林整備等の働きかけが全く行われず、補助制度の活用も行われなかったこと、森林所有面積も大半が0.3ha以下と極めて零細であることなどから、手入れ不足による荒廃森林の割合が高くなっている。 当事業では、連合会が自ら集約化を行い、境界の明確化、作業道の整備、利用間伐等の集約化施策を実践し、当地域の森林整備を推進することに加え、集約化施策の実践ノウハウを蓄積し、連合会として本来果たすべき森林組合への指導機能の強化を図ろうとするとする取組みが評価された。
そおちく 曾於地区森林組合 (鹿児島県)	事業名： ふるさとの森再生事業 ～台風被害からの復活～ 当地域は、志布志湾沿いに位置する台風被害を受けやすい地域である。未だに、平成5年の激甚な台風被害を受けた後遺症が残り、本事業地の林分では、台風によるキズなどで一般用材の割合が低く、材価が安いことなどから、森林所有者の森林離れが進み、荒廃林分が増加している。 当事業では、私有林と公有林とを一体として集約化し、私有林について森林現況に対応した施策方法を検討した上で、人工林については、路網整備を行い、高性能林業機械を活用した効率的な施策を行い、森林所有者の意識を高め、台風に強いふるさとの森の再生を図ろうとする取組みが評価された。

(6 事業)

(3) 施業集約化先進組合からの講演

講 師： 新井 和子氏 (多野東部森林組合 代表理事組合長)
 テーマ： 「人材育成による地域森林管理」
 日 時： 3日(金) 9時～

(4) 特別講演

講 師： 井上 篤博氏
 (日本合板工業組合連合会 会長・セイホク株式会社 代表取締役社長・
 秋田プライウッド株式会社 代表取締役社長)
 テーマ： 「我が国合板産業の現状と国産材への期待」
 日 時： 3日(金) 10時25分～

以 上



協同組合がよりよい社会を築きます

【本件に関するお問い合わせ先】

農林中央金庫 広報企画室 (Tel 03-5222-2017)

(報道関係の皆様へ)

会場準備の都合上、当日の取材を希望される場合には、**7月27日(金)15時までに**
 上記問い合わせ先までご連絡いただきますよう、お願い申し上げます。